

四国遍路道研究会報告（第6回）

四国遍路みちにおける、「へんろ転がし」の工学的研究

四国遍路みち研究会

・久礼長沢谷～添蚯蚓（そえみみず）～国道56号七子峠の現地調査報告

（第14回現地調査 2016.11.28）

平成28年11月28日7時半ごろに高松を出発し、中土佐町と四万十町境の七子峠（標高293m）に10時半ごろに到着。峠の駐車場に車をおき、国道56号から旧大野見村へ向かう県道41号に移動、農道と兼用になっている遍路道に入る。今回は、うるう年と調査員の体力から逆打ちとし七子峠から久礼長沢谷に降りる。



出発地点（県道41号枝道農道入口）

添蚯蚓（そえみみず）の名称は、久礼から液沢（じるさわ）経由の旧大野見村に繋がる本蚯蚓（ほんみみず）に添う形でミミズがはった跡のように曲がりくねっていることから名付けられたと約三百年前の土佐州郡誌に記されています。この約5kmの添蚯蚓は中世から明治中頃までは御城下高知から幡多に行く往還（今の国道）として重要な役割を担っていました。明治25年に大坂谷に県道（現国道56号）が開通すると添蚯蚓は往還の座を譲っていった。現在、「四国のみち」に選定されている久



礼八幡宮から大坂谷を経て七子峠までの南側のルートも、遍路道として利用されている実態もあります。

さて、話を戻して山頭火の碑文「人生即遍路」が立っている遍路道に入っていくと若干の上り坂だが全体的に平坦な道で、途中展



望が開けたところに年代物のくたびれた木製のベンチが在った。木立の開けた眼下には双名島（ふたなじま）が望めた。約1時間程歩いて「海月庵」跡に到着、苔むした遍路墓などがコナラの大木の下にひっそりと葬られています。ここは、明治時代まで茶屋があったという庵跡で、その昔、修行中の空海が、久礼湾上の月を賞して「海月庵」という庵を結び地藏菩薩と白坐像を刻んだという修行伝説のあるところです。



石畳の道

庵跡（標高363m）のここから下り道となり、道に石や枯枝・落葉が堆積し、それをイノシシの仕業と思しき湿地道の掘り返しの跡が頻繁にあるところを避けて下る。へんろ転がしとを感じる急勾配のところには、先人の知恵で石畳の道となっているところもある。延長は40m程度だが勾配は優に25%を超えている。しっかり足元を見ながら下る雑木林の向こうに、高速道路の真新しい大坂谷川橋と国道56号の久礼坂大橋が平行して展望できるビューポイントに到着。調査員の中にも初任地がこの橋の監督だったということでしばし盛り上がり、再び石のゴロゴロした遍路みちを下ると、高速道路近くの階段のすぐ上に「お奈みさん」の墓石がある。形は方形で文化五年辰年（1808年）の刻、片面は道しるべとなっているが、

100kgは在ろうかという大きいもので、重機等の無い時代にどうやって運び込んだのか不思議。役場のパンフレットによると、元はこの墓石の上にお地蔵さんが載っていたが、子孫の方が背負ってふるさともって帰ったということです。

ここからすぐ下に、高速道路の出現で風景が一変、荒廃しているものの趣のある遍路道が分断され、急勾配の階段に取って代わり、それも最下部は高速道路の橋下をくぐる構造で300段以上あり、「新たなへんろ転がしの出現か!」の声あり。付け替え道路を設計した人には申し訳ないが、遍路みちや歴史の道には全く興味が無なく、苦勞して歩く人のことを配慮していない道の復元にしか見えなかったことが残念です。調査



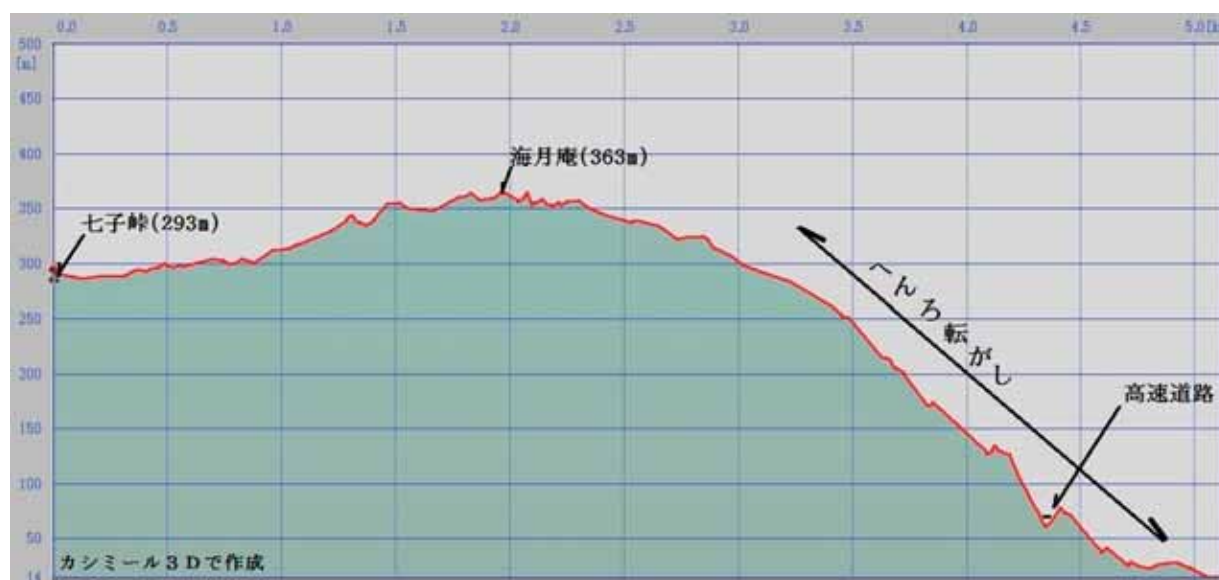
上：高速大坂谷川橋下：国道久礼坂第5橋

隊も疲労の蓄積からかV字勾配ルートが余計にきつく感じられたのかもしれない。

ここから長沢谷側に綺麗なこの添蚯蚓独特の石畳道が続く。石畳道は不連続ながら都合3区間延長的に約50m強あり、ここではしっかり石畳道との記念撮影。ここを過ぎると、もう終点。

終点付近に立て看板があり、それには、へんろみち草刈奉仕隊が毎年手入れしている。年度毎の看板で、奉仕隊の構成は地元だけでなく大阪・神戸あたりからも参加されている。頭の下がること。

結果的に、標高差約300mで延長1.8kmの平均勾配16%の中に30%近い勾配が含まれていた。長沢谷から、見返ると高速道路の橋梁と鬱蒼とした森があり、航空写真も正確な地図も無い時代に、よくこのルートが唯一の峠越えであることを感心する。昔の人はエライ。時間的には3時間弱の13時頃の到着で、逆打ちでこれだから順打ではあと1時間くらい必要か。



遍路みち歩行縦断

その後、少し遅めの昼食を大正町市場で済ませる。新鮮なカツオの刺身とタタキをペロリ。やはり本場物はうまい。すっかり疲れも取れる。

防災エキスパートのメンバーも兼ねていることから、「津波避難タワー」を見学して、中土佐ICより帰高した。



津波避難タワー（八千代タワー）